

## 第29回里山一斉調査報告

文：常俊容子

(NOB、里山委員会、野生シカ調査会)

春恒例の保全協会主催行事、第29回「里山一斉調査ー観察しながらウォーキング」は2011年4月10日13コース、17日2コース実施し、両日とも天候に恵まれ（コース名は確認表参照）延べ247名（うち小学生以下23名）が参加しました。

今年は全体に季節の歩が遅かったようです。〇〇がまだ開花していない、花芽が出ていない、展葉も遅い、四條畷・田原の里山では例年観られる渡り鳥が観察できなかったとか。一方サクラは見頃、減少を心配していたジュウニヒトエの新しい株を見つけた池田・五月山、昨年観察できなかったルリタテハが観られた高槻、とそれぞれのコースで一喜一憂している様子が伺えます。

しかし、人為による負の影響の報告もあり泉南・畦の谷では高速道路、広域農道、大規模宅地開発で生息地が分断され、神社のお供えを食べに来ていたリスは消え、橋本・玉川峡では道路の拡幅工事で消失した植生は回復せず、初めてセイヨウタンポポを確認。堺・鉢ヶ峯ではイノシシ被害のために放棄された田んぼからヘイケボタル、カスミサンショウウオが消えたとのこと。

イノシシは目立つ採食行動で各地を「荒らして」いるようです。（注：大阪府環境農林水産総合研究所の解析で、交配されたヨーロッパ種のブタDNAは検出されていないことから「現時点でイノブタは確認されない」というのが公式見解）

今年ならではの報告として、枚方・穂谷では原発事故の影響で、農業研修生が帰国、耕作地の維持が危ぶまれているのだそうです。

シカの現況と一斉開花ー枯死したササ類等植生への影響の確認が主目的の能勢町・天王では林床の植生は回復せず、深山周辺の裸地化が原因か、降雨後に川が目立って濁るようになったとのこと。程度の差はあれ、北摂各地でシカによる植生への影響は顕著です。

平成18年（2006年）より散発的にシカ情報がある河内長野・天見はシカは限り無くクロに近いグレー。岩湧山周辺の林道でシカ糞がまとまって確認されたとの情報が4月末に府の担当課からあり、ほぼ生息は間違いないようです。これをうけ、今後南河内一帯市町村もシカ特定計画の対象地域になる予定です。

特定外来生物では、八尾・高安山でソウシチョウが一斉調査では初めて確認されました。

コース担当者が集まった報告会で話題になったのはナルトサワギクです。ちなみに目次検索によると「都市と自然」では2001年5月号しぜんあなたの手帖が初出（堺市別所）、2009年2月号表紙で南あわじ市の写真が紹介されています。大阪では泉州地域より拡大、茨木丘陵では大規模な「彩都」開発で一気に増加。協会も関わっている吹田市紫金山公園で、最近自然再生事業として実施された池の土手改修に彩都由来の土砂が使用され、ナルトサワギクが出現したとのこと。

昨年国際生物多様性年にちなみ実施された府の「生きもの調査隊！2010」（8/25ー11/30）で、自然度の指標としてオオカマキリ、アリジゴク、シジュウカラ、トノサマガエル、そしてマイナスの指標である外来種の調査種としてナルトサワギクが選ばれているのです。

外来生物被害予防三原則は「入れない、捨てない、拡げない」。土の移動は意図的ではないにせよ、人為的な種子の逸出、拡散となり、何らかの監視、行政指導が必要なのではないのでしょうか。